

# 埼玉親善大使レポート Nov.

## ＊□メキシコの11月 死者の日＊□

私たちがメキシコに到着してから早4ヶ月が経とうとしています。昼間はまだまだ暖かいメキシコですが、夜は冷えるようになりやっと冬らしくなってきました。周りのメキシコ人に聞くと、今年は寒くなるのが少し遅れているようです。メキシコの冬はとても短く、12月～2月までの期間は冬らしい寒さ（実際に寒い日が続くのは12月～1月後半）があるのですが、それ以降はすぐに暖かくなります。冬といっても、日本の1月や2月のようには寒くなりません。私が前回語学留学した時はパーカーと革ジャンを着ていれば問題のない寒さでした。

しかし、あなどれないのがメキシコ。一般家庭で暖房器具があるお家はごくごく少数で、ほとんど普及していません。しかも、メキシコの家はコンクリート造りで断熱材など使われておらず、壁は打ちっぱなしコンクリートに色を塗っただけ、というのがほとんど。暑い時期は家の中がひんやりしていいのですが、冬の今の時期になると、家の中では底冷えしてベッドから出られないほどの寒さです。メキシコの方からすると、2ヶ月だけの寒い期間のために暖房器具をわざわざ買うのはもったいない、ということみたいです。「暖房が必要ほど寒くない」と、毛布にぐるぐる巻きになりながら言う人もいます。

そんな寒くなり始めのメキシコですが、11月には大きなイベントがあります。それは「死者の日 (el día de los muertos)」です。最近ではハロウィンと共に日本でも紹介されることが多くなったこのメキシコの行事ですが、まだまだ知らない方が多いと思います。この「死者の日」という行事は、日本のお盆に当たるもので、11月1日と2日の2日間に渡る行事です。1日目は亡くなった子供たちのための日、2日目は亡くなった成人たちのための日で、どちらかというと2日目が本番といった感じになります。

死者の日になると、町中がオレンジ色のマリーゴールドでいっぱいになります。この日のために設置された祭壇やお墓などもこのマリーゴールドでいっぱいになります。また、マリーゴールドに並んで死者の日に欠かせないのが「カトリーナ」と呼ばれる骸骨の女性です。

メキシコでは、この死者の日はセンチメンタルな行事ではありません。亡くなった人が帰ってくるのを歌って踊って喜ぶ、楽しい雰囲気行事です。



カトリーナ 元は貴族階級の女性を揶揄したものが始まりのようです。



右) マリーゴールドで作ったドレス

左) マリーゴールドと骸骨を使った祭壇